

2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月14日

上場会社名 株式会社パートナーエージェント 上場取引所 東
 コード番号 6181 URL <https://www.p-a.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 茂
 問合せ先責任者 (役職名) IR広報部長 (氏名) 伊東 大輔 TEL 03-5759-2700
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	6,295	101.1	146	△2.4	130	△5.2	88	10.9
2019年3月期第3四半期	3,131	3.6	149	39.5	137	1.1	79	△8.9

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 90百万円 (25.2%) 2019年3月期第3四半期 72百万円 (△17.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	8.58	8.29
2019年3月期第3四半期	7.99	7.54

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	4,953	1,105	22.3
2019年3月期	3,382	978	28.9

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 1,105百万円 2019年3月期 978百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	0.00	—		
2020年3月期（予想）				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,100	119.2	230	6.3	170	△18.4	130	44.3	12.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 — 社（社名）—、除外 — 社（社名）—

（注）第1四半期連結会計期間において当社の連結子会社である株式会社ライジングが特定子会社（孫会社）となる旧・株式会社メイシヨンの発行済株式の全てを取得しております。また、第2四半期連結会計期間において旧・株式会社メイシヨンは株式会社ライジング（新・株式会社メイシヨン）を存続会社とする吸収合併により消滅しています。詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理：有

（注）詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	10,698,000株	2019年3月期	10,432,800株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	241,529株	2019年3月期	279,429株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	10,316,466株	2019年3月期3Q	9,991,680株

（注）当社は、「株式給付信託（従業員持株会処分型）」を導入し、当該信託にかかる信託口が所有する当社株式については、四半期連結財務諸表において自己株式としているため、上記期末自己株式数には信託口が所有する当社株式（2019年3月期279,300株、2020年3月期3Q241,400株）が含まれております。また、信託口が所有する当社株式を期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（2019年3月期3Q311,098株、2020年3月期3Q260,277株）。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績等の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(四半期連結財務諸表の作成に当たり適用した特有の会計処理)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績等の概況

当社グループは、経営理念である「世の中に、もっと笑顔をもっと幸せを。」という想いの下、婚活支援業界の変革者として価値を創造し続け、より多くの成婚機会をつくり、成婚後のお客様の生活品質向上に貢献すべく事業を展開しております。また、2020年3月期（以下、「当期」）より当社グループに迎え入れた株式会社メイシオンは、「人生を彩るのは忘れ得ぬ記憶だと思ふ。」という想いの下、ウェディング業界でお客様の期待を超越する新たな結婚スタイルを創造し続けております。

当第3四半期連結累計期間（以下、「当第3四半期」）においては、消費税増税や天候不順の影響を受けたものの、その影響は限定的で、通期計画に対しては概ね堅調な推移となりました。

婚活事業では、結婚相談所領域の新規入会者数が10月に一時的に減少したものの、全体的には堅調に推移しました。エントリーサービス領域は、婚活パーティーの戦略的な開催数の絞り込みで売上が減少したものの、引き続き利益は大幅な改善となりました。なお、第2四半期まで店舗統廃合に伴う減価償却費の早期計上を行いました。が、前述により減収増益となりました。

カジュアルウェディング事業では、当期より株式会社メイシオンの収益を反映し、大幅な増収増益となりました。なお、天候不順により一部施行において延期やキャンセルが発生したものの、施行件数及び成約件数は前年同期を上回り推移しました。

その他事業では、前期に保育事業の譲渡、及び婚活支援システム販売に係る一過性の収益計上があり、減収減益となりました。

販売費及び一般管理費については、株式会社メイシオンのグループ化に伴い費用が増加していますが、グループ本社機能の集約や広告効率化等により期初計画を下回り推移しました。なお、同社株式取得に係るのれん及び無形資産償却費については、当第3四半期に155百万円を計上しました。

営業外損益については、当期より持分法適用関連会社となったエン婚活エージェント株式会社ののれん償却費を持分法による投資損失として計上し、特別損益については、事業ポートフォリオの見直しに伴う事業譲渡益等を計上しています。なお、税効果会計による会計処理の影響により法人税等が減少しました。

この結果、当第3四半期の売上高は6,295百万円（前年同期比 101.1%増）、営業利益は146百万円（同 2.4%減）、経常利益は130百万円（同 5.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は88百万円（同 10.9%増）となりました。なお、当社の重要な経営指標と位置付けるEBITDA（営業利益に償却費を加えて算出）は486百万円（同 73.2%増）となりました。

当社グループの報告セグメントごとの概況は次のとおりです。なお、当社グループは第1四半期より、「婚活事業」「ウェディング事業」「その他事業」の3つのセグメントに区分しており、前年同期の数値も変更後のセグメントに合わせて組み替えを行っています。また、第2四半期より、当社グループが行う事業をより適切に表現するため、「ウェディング事業」のセグメント名称を、「カジュアルウェディング事業」に変更しています。当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

(婚活事業)

婚活事業においては、主に付加価値の高い結婚相談所の運営と、エントリーサービス（エントリー型結婚相談所、婚活パーティー、マッチングアプリ）の企画開発及び運営を行っています。また、ソリューションサービスとして、婚活支援事業者間の相互会員紹介を可能にするコネクティブの運営等を行っています。

当第3四半期は、結婚相談所領域でブランド確立に向けた各種施策を進めました。とくに、広告面では、顧客成果に重点を置き、商戦期（主に1月と8月）と閑散期（主に10-12月）でそれぞれ効果的・効率的な広告施策を実施しました。また、商品・サービス面では、新たな顧客層の開拓に向けて高級路線のコースを開始するとともに、会員様が初めてお相手に出会う特別な場所として東京・丸の内に「PAプレミアムラウンジ」をオープンしました。これらの相互作用もあって、ブランド検索数や資料請求件数等は増加を続け、新規入会者数は前年同期比8.9%増の6,251名、成婚退会者数は同0.9%増の2,414名となりました。なお、消費税増税の影響により新規入会者数が10月に一時的に減少したことで、2019年12月末の在籍会員数は同0.4%減の11,464名となりました。

エントリーサービス領域は、既存婚活パーティーの運営最適化とサービス品質向上を目指し、開催数の戦略的な絞り込みを行いました。これらにより、参加者数は前年同期比25.9%減の179,100名となりましたが、一開催当たりの参加者数は増加し、内製化による効率化等により利益は大幅な改善となりました。また、婚活パーティーから結婚相談所への紹介は、前年同期比4.5%増の465名となりました。なお、当該領域では、高付加価値型の新たな婚活パーティー及びマッチングアプリの企画開発を進めており、来期中に順次投入する見込みです。

ソリューションサービス領域では、コネクティブの利用事業者とその顧客の利益最大化に向けて、利用会員数及び利用機会の拡大に向けた諸施策を進めています。とくに、当第3四半期には、『官公庁マリッジ』に次いで、一般社団法人日本少子化対策機構が提供する『Kマリアージュ』（旧・KISSコンマリアージュ）が新たな事業者として加わりました。これらにより、2019年12月末の利用会員数は前年同期比21.0%増の29,580名となりました。な

お、お見合い成立件数は期初から一定水準で推移しており、引き続き利用機会の拡大に向けて諸施策を進めていきます。

この他、婚活事業においては、将来を見据えて第2四半期に5店舗の統廃合を行いました。これらにより、当第3四半期の売上高は2,719百万円（前年同期比 6.1%減）、営業利益は623百万円（同 0.2%増）となりました。

<同事業の主要指標>

	2019年3月期 第3四半期累計期間	2020年3月期 第3四半期累計期間	前年同期 増減率
新規入会者数	5,741名	6,251名	+8.9%
在籍会員数（期末）	11,508名	11,464名	△0.4%
成婚退会者数	2,393名	2,414名	+0.9%
成婚率	27.3%	27.6%	+0.3pt
パーティー参加者数	241,623名	179,100名	△25.9%
パーティー開催数	22,570回	16,214回	△28.2%
コネクトシップ 月初利用会員数（期末）	24,439名	29,580名	+21.0%
コネクトシップ お見合い成立件数	245,342件	234,766件	△4.3%

- (注) 1. 成婚とは、当社のサービスを利用して知り合った会員同士が、結婚を視野に入れ交際を継続していくことをいい、当社が成婚の意向を双方の会員から確認した場合に、当該会員は成婚退会をすることになります。
2. 成婚率とは、在籍会員中何名の会員が成婚退会しているか、その割合を示すものです。具体的には、成婚率は、毎年4月1日から翌年3月末までを計算期間とし、以下の計算式にて算出しております。
(計算式) 年間成婚退会者数÷年間平均在籍会員数
3. 当第3四半期における成婚率の計算をする際には、前項の通期の計算式に準じるため、当第3四半期の平均在籍会員数を4で除した後3を乗じて算出しております。
4. 成婚率及び増減率は、小数点第二位を四捨五入しております。
5. 2019年3月期第3四半期累計期間のパーティー参加者数は、確定値に修正しております。

(カジュアルウェディング事業)

カジュアルウェディング事業においては、近年広がりを見せるカジュアルウェディング（主にお客様のご希望に沿った価格帯の挙式披露宴、会費会食制ウェディング、フォトウェディング、挙式のみ）のプロデュースと、挙式披露宴後の二次会プロデュース等を行っています。また、成婚後の生活品質向上に資するサービス（ブライダルジュエリーや保険の販売、住宅情報サービスの提供等）も展開しています。

当第3四半期については、カジュアルウェディング領域で、「スマ婚シリーズ」の品質強化と商品ラインアップの拡充に注力しました。その一つとして、挙式披露宴等で衣装貸し出しを行う「スマ婚ドレス」や、挙式に重点を置いた「スマ婚挙式」を順次立ち上げ、受注も好調に推移しました。また、衣装以外の各種アイテムについても内製化に向けた諸施策を進めました。これらに加え、婚活事業との相乗効果もあり、「スマ婚シリーズ」の成約件数は1,128件（前年同期は833件）、施行件数は1,117件（同 852件）となりました。

二次会領域では、業界最多級のプロデュース実績を誇る「2次会くん」の更なる事業拡大に向けて、ウェディング業界の有力企業や大手旅行会社等と連携した顧客獲得を進めるとともに、引き続き事業基盤の強化に注力しました。これらに加え、婚活事業との相乗効果もあり、成約件数は2,869件（前年同期は2,302件）、施行件数は2,864件（同 2,566件）となりました。

生活品質向上に資するサービス領域では、当社婚活サービスを通じてご成婚されたお客様や、カジュアルウェディングサービスをご成約頂いたお客様に対し、ブライダルジュエリーや保険等の販売を行いました。とくに、保険販売では、「パートナーエージェント×保険クリニック」の渋谷東口店に次いで大阪駅前店を開設する等、提供エリアの拡大にも努めました。また、株式会社デュアルタップと連携し、2020年1月より良質な住宅情報サービスの提供を開始しました。

なお、カジュアルウェディング事業では、株式会社メイシヨンの株式取得に係るのれん及び無形資産償却費155百万円を計上していますが、当第3四半期の売上高は3,435百万円（前年同期比 4,724.5%増）、営業利益は116百万円（同 1,102.2%増）となりました。

<同事業の主要指標>

	<ご参考> 2019年3月期 第3四半期累計期間	2020年3月期 第3四半期累計期間	<ご参考> 前年同期 増減率
(成約件数)			
スマ婚シリーズ	833件	1,128件	+35.4%
2次会くん	2,302件	2,869件	+24.6%
(施行件数)			
スマ婚シリーズ	852件	1,117件	+31.1%
2次会くん	2,566件	2,864件	+11.6%

(注) 1. 2019年4月より株式会社メイションをグループ化しており、2019年3月期第3四半期のスマ婚シリーズ及び2次会くんの施行件数については、2019年3月期第3四半期連結業績に含まれておりません。

(その他事業)

その他事業においては、主に婚活周辺サービス（婚活支援を行う自治体向け運営支援等）、カジュアルウェディング周辺サービス（映像制作、施設運営等）、新規事業開発等を行っています。

当第3四半期については、婚活周辺サービスで、地方自治体向け婚活支援システム「parms（パームス）」の受注拡大に向けた諸施策を進めるとともに、秋田県への「parms」導入に向けた準備を進めました。また、カジュアルウェディング周辺サービスでは、「スマ婚」や「2次会くん」で活用するオープニングムービーや新郎新婦を紹介するプロフィールムービーの制作を進めました。この他、新規事業開発では、挙式披露宴後の二次会プロデュースで培った知見やノウハウを活用した企業向けイベントプロデュース「イベモン」について、認知度拡大及び営業体制強化に向けた諸施策を進めました。

なお、その他事業では、前期に保育事業の譲渡、及び保育士向け婚活支援システム販売に係る一過性の収益計上があり、当第3四半期の売上高は154百万円（前年同期比 10.3%減）、営業利益は21百万円（同 2.3%減）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,570百万円増加し、4,953百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ224百万円減少し、1,834百万円となりました。主な要因は、現金及び預金338百万円の減少及びその他に含まれる前払費用36百万円の増加によるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,796百万円増加し、3,118百万円となりました。主な要因は、のれん645百万円の増加及び長期貸付金548百万円の増加によるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ1,443百万円増加し、3,847百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,477百万円増加し、2,609百万円となりました。主な要因は、短期借入金1,220百万円の増加及び未払金129百万円の増加によるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ33百万円減少し、1,237百万円となりました。主な要因は、長期借入金51百万円の減少及び資産除去債務31百万円の増加によるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ127百万円増加し、1,105百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益88百万円の計上及び自己株式21百万円の減少によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の連結業績予想については、当第3四半期まで業績は概ね堅調に推移しており、2019年5月14日付「2019年3月期 決算短信」で公表した内容から変更はございません。

第4四半期については、引き続き、婚活事業において結婚相談所領域でブランド確立を進めていきます。なお、2020年1月の商戦期に向けては、すでに営業体制の強化を図っており、効果的・効率的な広告展開からの更なる顧客獲得に努めていきます。また、カジュアルウェディング事業においては、全方位でお客様のニーズにお応えできるよう、品質強化はもとより商品ラインアップの更なる拡充を図っていきます。

この他、経営全般では、グループ本社機能の集約も進捗しており、第4四半期以降は効率化等の効果も一層表れる見込みです。

なお、株式会社メイションの株式取得に係るのれん及び無形資産償却については、当期に207百万円（のれん償却費57百万円、無形資産償却費150百万円）を計上する見込みですが、来期以降はのれん償却のみとなることから、営業利益は大幅に増加する見込みです。また、中期経営計画については、2019年7月の新経営体制のもと鋭意取りまとめており、2020年5月には公表できる見込みです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,207,846	869,323
売掛金	723,928	704,882
その他	154,957	318,139
貸倒引当金	△27,044	△57,617
流動資産合計	2,059,687	1,834,727
固定資産		
有形固定資産		
建物	412,759	553,254
減価償却累計額	△161,082	△240,724
建物（純額）	251,677	312,530
工具、器具及び備品	271,092	328,158
減価償却累計額	△200,771	△241,247
工具、器具及び備品（純額）	70,320	86,910
その他	9,000	36,822
減価償却累計額	△2,250	△4,677
その他（純額）	6,750	32,145
有形固定資産合計	328,747	431,585
無形固定資産		
ソフトウェア	258,711	295,997
ソフトウェア仮勘定	76,483	113,223
のれん	-	645,739
その他	-	37,500
無形固定資産合計	335,195	1,092,459
投資その他の資産		
投資有価証券	253,063	364,958
敷金	356,628	475,485
長期貸付金	-	548,000
その他	48,469	205,671
投資その他の資産合計	658,161	1,594,115
固定資産合計	1,322,104	3,118,161
繰延資産	969	755
資産合計	3,382,761	4,953,645

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,025	85,988
短期借入金	380,000	1,600,000
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	351,503	402,100
未払金	126,941	256,197
未払法人税等	70,949	22,063
その他の引当金	4,824	20,934
その他	150,412	182,659
流動負債合計	1,132,657	2,609,942
固定負債		
社債	150,000	130,000
長期借入金	985,412	934,157
資産除去債務	130,669	162,276
その他	5,346	11,318
固定負債合計	1,271,427	1,237,752
負債合計	2,404,084	3,847,694
純資産の部		
株主資本		
資本金	255,933	263,288
資本剰余金	220,345	227,700
利益剰余金	666,478	754,968
自己株式	△161,587	△139,668
株主資本合計	981,170	1,106,287
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,493	△337
その他の包括利益累計額合計	△2,493	△337
純資産合計	978,676	1,105,950
負債純資産合計	3,382,761	4,953,645

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	3,131,039	6,295,267
売上原価	1,354,920	3,113,993
売上総利益	1,776,118	3,181,273
販売費及び一般管理費	1,626,149	3,034,832
営業利益	149,968	146,441
営業外収益		
受取保証料	10,656	10,656
助成金収入	330	15,402
受取保険金	-	10,000
その他	1,112	10,130
営業外収益合計	12,099	46,189
営業外費用		
支払利息	7,538	22,612
敷金償却費	12,287	-
持分法による投資損失	-	24,975
その他	4,578	14,484
営業外費用合計	24,405	62,071
経常利益	137,663	130,559
特別利益		
固定資産売却益	1,991	-
事業譲渡益	-	44,716
補償金収入	-	16,000
特別利益合計	1,991	60,716
特別損失		
固定資産除売却損	4,043	291
減損損失	-	18,213
特別調査費用	-	13,753
その他	-	18,797
特別損失合計	4,043	51,054
税金等調整前四半期純利益	135,612	140,220
法人税等	59,811	51,730
四半期純利益	75,800	88,490
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,000	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	79,800	88,490

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	75,800	88,490
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,383	2,155
その他の包括利益合計	△3,383	2,155
四半期包括利益	72,417	90,646
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	76,417	90,646
非支配株主に係る四半期包括利益	△4,000	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において当社の連結子会社である株式会社ライジングが特定子会社(孫会社)となる旧・株式会社メイションの発行済株式の全てを取得しております。また、第2四半期連結会計期間において旧・株式会社メイションは株式会社ライジングを存続会社とする吸収合併により消滅し、存続会社の株式会社ライジングは株式会社メイション(新・株式会社メイション)に社名変更を行っております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益計算 書計上額 (注) 2
	婚活事業	カジュアルウ エディング事 業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	2,894,997	71,216	164,824	3,131,039	-	3,131,039
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1,086	-	6,935	8,021	△8,021	-
計	2,896,084	71,216	171,759	3,139,061	△8,021	3,131,039
セグメント利益	622,676	9,650	21,624	653,951	△503,982	149,968

(注) 1. セグメント利益の調整額△503,982千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用の主な内容は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結損益計算 書計上額 (注) 3
	婚活事業	カジュアルウ エディング事 業 (注) 1	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	2,718,640	3,434,665	141,960	6,295,267	-	6,295,267
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1,050	1,165	12,120	14,336	△14,336	-
計	2,719,691	3,435,830	154,081	6,309,603	△14,336	6,295,267
セグメント利益	623,734	116,018	21,118	760,870	△614,428	146,441

(注) 1. カジュアルウエディング事業セグメントにはのれん償却額43,049千円が含まれております。

2. セグメント利益の調整額△614,428千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用の主な内容は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、会社組織の変更に伴い、報告セグメントを従来の「パートナーエージェント事業」、「ファスト婚活事業」、「ソリューション事業」及び「QOL事業」の4区分から、「婚活事業」、「ウエディング事業」及び「その他事業」の3区分に変更しております。

また、第2四半期連結会計期間より、当社グループが行う事業をより適切に表現するため、「ウエディング事業」のセグメント名称を、「カジュアルウエディング事業」に変更しております。当該セグメントの名称の変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法及び名称により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

婚活事業において、ソフトウェア関連の減損損失を計上しております。当該減損損失の計上額は当第3四半期連結会計期間において2,197千円です。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。